

富山県聴覚障害者 センターだより

- 協会とセンターのホームページ
<http://www.tomichokyo.or.jp>
- 手話通訳・要約筆記・ライブラリ・センター利用の「手引き」を配布してい

全国聴覚障害者情報提供施設協議会聴覚障害者向け映像制作研修会

ろう者に伝わりやすい映像を制作するには

10月17日(火)～18日(水)の2日間、和歌山県聴覚障害者センター(和歌山県民交流プラザ ビッグ愛)内で開催。参加者はオンライン参加21名を含めて39名でした。

最初に委員長の坂井貴行氏(新潟県聴覚障害者センター一長)の挨拶。続いて、総務省情報流通行政局地上放送課の矢野氏より「視聴覚障害者放送の取り組み」を題してお話いただきました。放送分野における情報アクセシビリティに関する指針改定案、字幕番組・解説番組・手話番組の普及率やこれから目標とする普及率などの説明がありました。そして①株式会社アイシンから音声認識システムの「YYSystem(ワイワイシステム)」について。②委員長の坂井氏より情報提供施設の映像制作に関わる取り組みの課題、体制や運営の見直しについて。③和歌山県聴覚障害者センターの田村氏から和歌山県での映像制作の取り組みと課題などについて。④熊本県聴覚障害者情報提供センターの岡氏から「聴覚障害者向けの映像とは」。それぞれお話いただきました。聞こえる人が制作した映像は音響中心のため、ろう者に伝わりにくい。視覚的に分かり、ろう者に伝わりやすい映像制作の考え方について学びました。夜は4年ぶりに交流会を開き、いろいろと情報交換をすることができました。



18日は、4グループに分かれて、ロケハン、取材方法や撮影で注意すべきこと、映像制作作業で困ったことや悩みなどを討論しあいました。時間が足りないくらい、十分に討論することができました。共通している課題は「企画案の作り方」「絵コンテ」「シナリオ」「手話キャスターの人材育成」が多かったです。

この研修会に参加して感じたことは、同じ映像制作者同士で話しあえる場所があることはとても良かったです。オンラインでは言いたいこと、聞きたいことがあってもスムーズに討論できないところがあったけれど、対面では実際の映像を見ながらお互いに「あーでもない、こうでもない」「こうするといいいんだよ」といったやりとりができるので、有意義な研修だったと思います。

年末・年始のセンター休館のおしらせ

12月29日(金)～1月3日(水)は、当センターの休館とします。休館中に2～3回職員が交代で当番出勤を行う予定ですので、何かあればファックス(076-441-7305)願います。

センター利用の実績 10月21日～11月20日

- 来所者合計 609名
聴障者234名、健聴者375名
- コミュニケーション支援 130件
- ライブラリー貸出1件3本 ●相談対応10件
- 部屋貸出 40件

★センター運営募金・募集
郵便振替口座；
00790 - 0 - 93002
名称；富山県聴覚障害者
センターを支える会
よろしく願います。